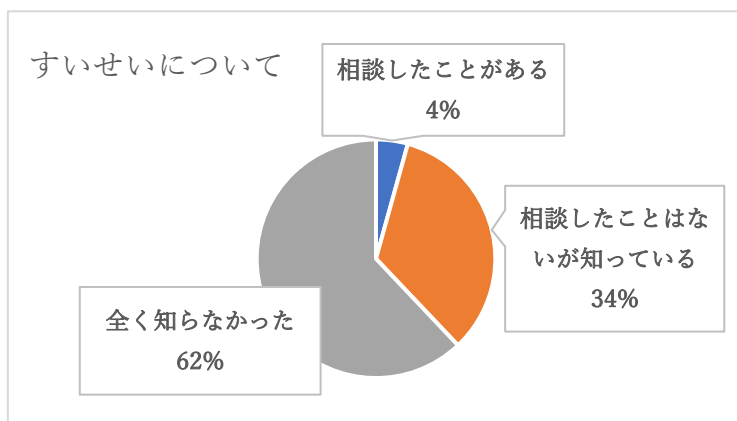
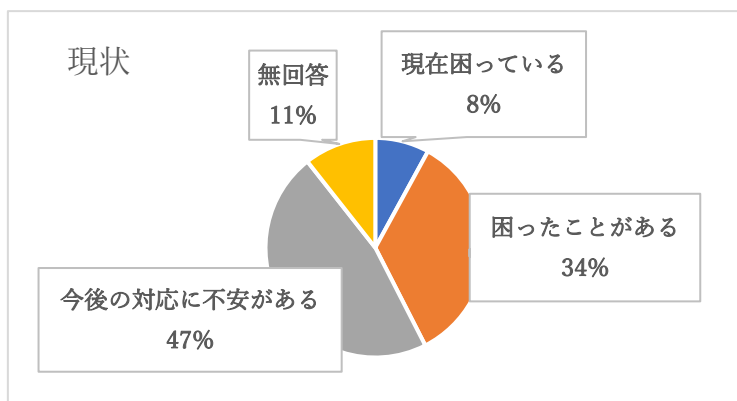
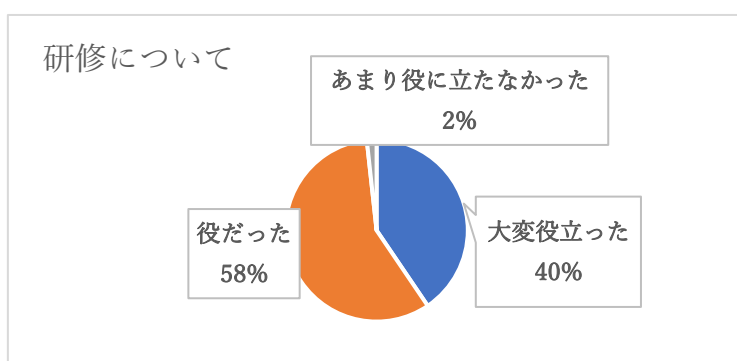
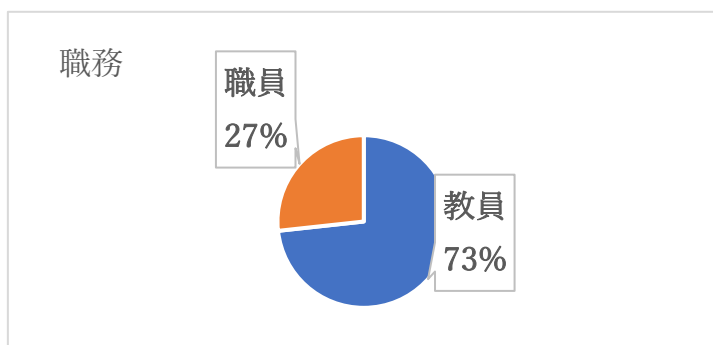


アンケート集計

回答率 74.3% (116/156)



自由記述（原文のまま）

- ・教職員が相談できる体制があると知らなかったのが大変参考になった。
- ・合理的配慮の具体例などが示され、発達障害などの思い込みがあったことがわかりました
- ・今回のような研修を、多くの教職員、できれば全教職員が受講できることが大切だと思います。本日も他の会議と重複していたと思いますので、継続的に複数回開催していただければ幸いです。
- ・合理的配慮の難しさを感じた。
- ・学生に対してどのようなサポートができるのか、自分自身のできることを考える良い機会になりました。
- ・障害を申請している学生の対応は、ある程度配慮できるが、問題は申請していない、隠れ障害者（コミュ障、精神弱者、記憶障害など）への対応が、教員にかかってくることである。こういった事例集があればまとめていただきたい。
- ・理解の遅い学生がいると「もしかしたら障がい者かな？」と感ずることがあります。このような場合の対応も知りたいです。次回は実例を多く交えて頂ければと思います。
- ・色々あり勉強になり、ありがとうございました。
- ・どちらかという、明らかにこままっているというより、グレーゾーンの学生が多いと感ずる。なんとなくしんどさを抱えながら、なんとなくやり過ごしているようで、そのままほうっておいてよいか、社会に出たら困るだろうとおもいつつも、こちらから積極的にアプローチすべきかどうかの判断がとても難しい。学力もあり、プライドもある若い将来性のある学生に、どのようにかわるかは正解がないだけに悩ましく、制度というより人的システムの構築が求められると思った。
- ・状況が個々に複雑なので個々の問題に丁寧に接するとある程度対応可能。このような研修を実施することで改善に役立つ。本日の案内が実施直前は問題。もっと前もって伝え、リマインドメールを配信すべき。学部毎の教授会を通じて受講を促すべき。
- ・発達障害の診断がついてなく変だと思っけていても、本人の自覚がない場合があり、自分は何も困っていないというときに関わるのが難しい。
- ・障がい学生は多々いる。しかし、手探りで対応しているところなので、今後も、継続的に取り組んでほしいです。
- ・普段、学生と接する際にも有益なアドバイスをいただきました。
- ・障がいではないと思うのですが、近年、メンタルの弱体化が学生に見られるように思います。そのため、保健室の負担が尋常ではなく増加しています。
- ・毎年実施すべきであると思います。
- ・障がいは学生だけではなく、教員、職員にもあてはまると思います。
- ・ケースバイケースの対応が求められることが多いと感じましたが、「支援の見える化」が重要になると思われる。
- ・とても参考になります。年度ごとに今後も開催頂ければと思います。

- ・教職員の少ないキャンパス等では、きめ細やかな配慮はなかなか難しいように思う。
- ・非常に対応が難しく感じる。教員が相談できる連絡先を教えてください。
- ・合理的配慮に関する判断基準を示していただいたりして有意義でした。
- ・"他学生がどのように判断するのが、気になります。
- ・それも含めて、大学全体（社会全体）として、それをずるいとみるのではなく、当たり前のことだと感じる社会づくりが必要なのでしょうか"
- ・参考になりました。
- ・もっと事例を多く紹介してほしいです。
- ・予防的な事柄に気を付けたいと思います。
- ・学生はもちろん、教員側も一人で悩むことがあろうと思う。それに対する支援も簡単にできると良いと感じました。
- ・分かりやすかったです。
- ・"とても有意義な研修を企画、実施していただき、ありがとうございました。
- ・貴重な機会をありがとうございました。
- ・こうした研修を、年に一回、大規模に行うのではなく、こまめにもう少し少人数に分けて、グループワークを設ける形で教職員全体のスキルアップも念頭に行うことはできないか？
- ・研修ありがとうございました。とても参考になりました。
- ・"事例紹介がいくつかありました。
- ・Q&Aの形で整備していただけると、参考になると感じました。"
- ・概ね以前の講演と同じ内容でしたので、過去に行った講演内容の差分を事前にお知らせ頂ければ幸いです。
- ・こういう研修はどんどんやっていただきたいし、研修を録画したものをいつでも見られるようにしていただきたい。
- ・学生のみならず、教職員への支援についても必要だと考えます。
- ・出てくる言葉になじみがないので、研修は繰り返し受けた方が良い。
- ・これまであまり対応する機会はなかったが、今後、障害学生の支援にあたる際に役立つと思う。
- ・事例の蓄積、学内で共有（場合によっては公開）すればよい
- ・「すいせい」とのとの連携体制が構築されていることの、教職員への重なる周知
- ・教職員が気軽に相談できる窓口、支援体制が必要
- ・学生がコミュニケーションを取り、教員と合意形成を図れる体制
- ・専門家や医師でも診断が難しい発達障害を持つ学生さんへの対応は難しいと考えます。坂下副学長がおっしゃった通り「障がいの有無に関わらず、学生さんが抱えている問題、課題と一緒に考えるスタンスで取り組むこと、事実を焦点を当てながら、対話することが大切」と思います。
- ・毎年必要 全ての教職員が受講すべき